

解説

熊谷組の海外展開 ～夢の途中～

やまざき
山崎 昌
(株)熊谷組
常務執行役員国際本部長

今回、本誌編集委員長の森田弘昭先生より寄稿についてお説いがあった際には、推進のみで書くのは厳しいと感じたが、「推進工法のことに少し触れ、あとは自由に熊谷組の海外展開の夢を語ってほしい」とのお言葉を頂き、寄稿をお引き受けした。

幕末の吉田松陰は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」と言っている。また私の信奉する稻盛和夫氏は「新しいことを成し遂げる人は、自分の可能性をまっすぐに信じることができる人だ。可能性とは未来の能力のこと。現在の能力で『できる』『できない』を判断しては、新たなことや困難なことはいつまでたってもやり遂げられない」と言っている。

以下、私の個人的思いも強いが、熊谷組の海外展開の夢について、いくつかのトピックを記す。

1 インドネシア

インドネシア・ジャカルタ下水道整備工事については、様々な方が既に月刊推進技術に寄稿していて、事業の詳細はそちらを参考にされたい。現在弊社は、インドネシアの地場ゼネコン2社とJVを結成し、ゾーン1の推進工法による面整備のパッケージ2・3に入札しており、近々に受注業者が決定する予定である（2022年11月末本稿執筆）。本事案は、国土交通省やJICAの長年に渡

る案件形成の取組みとこれを支える（公社）日本推進技術協会やそのメンバー各社による支援・組立の賜物と言える案件である。また本案件の後には、同様の工種のゾーン6案件もODA案件として現在設計が進んでおり、さらにその他のゾーンの下水道整備でも日本政府のODAの支援を現地は期待しているとも聞いている。弊社が施工を担当する場合は、今回案件が今後の案件の先駆けとなることを肝に銘じ、日本の推進関係企業や地元企業と確実に連携し、日本国政府やJICAの思いも受け止め、案件を成功裏に竣工させたい。

推進工事には、要求品質を満足する推進管の確実

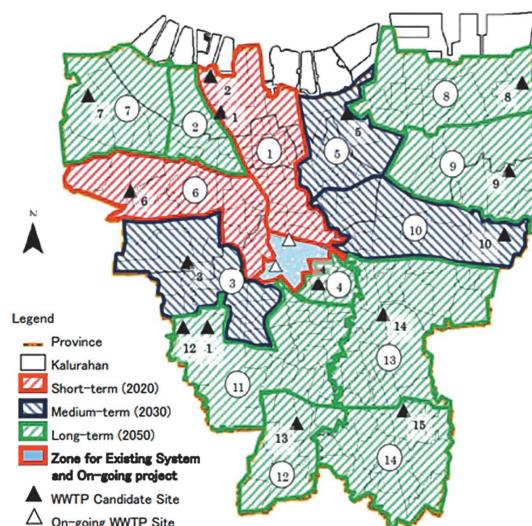


図-1 ジャカルタ下水道整備計画全体図 (①等:ゾーン番号)

な供給がキーポイントである。さらに今回の推進管には、高レベルの技術が要求されており、インドネシアは既に推進管製作の実績はあるものの、日本の推進管製作技術の導入が必須と考え、地元企業と本邦企業の様々な連携を検討中である。管の製作は、工事請負とは異なる建設関連分野のビジネスであり、今後のジャカルタ下水プロジェクトの拡がりや重要性を考えると、我々日本企業が関わるべき事案と考えている。

終戦直後の高速道路建設計画で来日したワトキンス調査団は「日本の道路は信じがたいほど悪い」と感想を述べた。日本の戦後復興や経済成長は、道路整備を始めとしたインフラ整備があつてこそ達成されたと言つても過言では無い。現状のアジアの諸国も同様の社会課題を抱えており、我が国の技術支援によるインフラ等の整備が各国の成長の必須の条件であり、我々の貢献・活躍の場は多いと確信する。

2 インド

弊社とインドの関りは2004年に工事が竣工したODA案件のデリー地下鉄1期工事に遡り、現在も民間建築工事を行っている。デリー地下鉄工事の当初は、ヘルメットを被らずサンダル履きで工事に従事した作業員もあったと聞くが、その後のインドの建設業の発展は極めて速く、現在でも多数の日本国支援のODAの案件があるものの地元建設業が力をつけて本邦ゼネコンがインドでのインフラ整備土木工事を担当した事例が少ないので現状である。

インドは2023年には人口が中国を上回り世界一になり、



写真-1 デリー地下鉄建設の様子の展示

GDPも2020年代半ばに世界第3位になるなど成長が著しく、日本の製造業の多くの会社はインドで積極的な事業展開を行っている。しかしながらインドにはビジネスを行う上で様々な難しさもあり、本邦ゼネコンで進出している会社は多くない。このような状況下で、弊社はインドに現地法人を設立し、特に日本企業の事業展開に貢献すべく、地元の実績ある企業との連携も含めて、インドでの建築事業展開に注力している。

坂本龍馬は高知の桂浜の海岸から太平洋を望んで海援隊の世界での活躍を心したと聞く。インド西側にはアラビア海が広がり、その先にはインドと同等あるいはそれ以上に潜在力を持ったアフリカがある。連携を検討中のインド企業は、アフリカにも多くの拠点を持ち、そこで我々との連携を切望している。彼らとのアフリカでの協業も、夢のひとつである。

3 ベトナム

地球が誕生してから今迄の時間を1年とすると、人類誕生はわずか77秒前のことである。その1分強で人類の活動は地球環境に重大な悪影響を及ぼし、翻って自らの存在の危機を誘発している。脱炭素は我々人類が守らねばいけない絶対的な命題である。

2年前に弊社はベトナムでの太陽光エネルギー発電事業に参画し、あわせて、ベトナムの有力再生可能エネルギー会社と戦略的業務提携契約を結び、様々な再エネ事業を検討している。その中には、ベトナム南部の良好な風況が得られる地点での大規模洋上風力発電



写真-2 ベトナムの洋上風力発電